



大型ショッピングビル「なんばパークス」の屋上にあるアーバンファーム



アーバンファームの管理責任者、
辻本龍松園の西埴征広さん



アーバンファーム

「なんばパークス」の屋上公園

■ プロジェクト実現のプロセス

「アーバンファーム」は、大型ショッピングビル「なんばパークス」9階屋上庭園の一部にある会員制の都市型農園（都市型貸菜園）である。

なんばパークスは平成15年10月南海電気鉄道によって大阪球場跡地に完成した複合施設で、「未来都市なにわ新都」をコンセプトに、延床面積24万3800㎡の本格的なオフィスビル、SC、文化施設などからなる。そのSC施設屋上にある段丘状の屋上庭園「パークスガーデン」には約300種類、約7万株の植物が植えられており、民間都市開発では日本最大級の「都市と自然」の両方を同時に楽しめる空間である。その9階部分の一角に、都心居住者に「農とのふれあいを楽しむ」企画として「アーバンファーム」20区画。1区画約2坪）が設けられた。

施設全体は南海電鉄の完全子会社である「南海都市創造」が運営している。建設時に株式会社辻本龍松園が屋上庭園の設計を任されて、市民参画型をコンセプトにするなかで会員制都市型農園（都市型貸菜園）の構想が持ち上がり、日本における第1号がここに誕生した。

■ アーバンファームの特徴

アーバンファームは屋上に設けられた農園で農地法（昭和27年7月 法律第229

号）や市民農園促進法（平成2年6月法律第44号）などにかからない任意の農園である。

1区画は約2坪。専属の菜園スタッフ1人がついて、作付けから収穫までフルサポートしている。

費用は1区画につき3150円/月と、土壤管理費として年間1万2600円の会費である。毎年12月に募集して抽選で決まる。平成15年のオープン時には1100通の応募（約50倍）があった。あまりに多かったので、その後はホームページや管内ポスターに切り替え、10倍程度で落ち着いている。

毎年抽選であるがリピーターの応募が多く、理由がない限りやめない人が多い。メインの利用者は四十代の主婦であるが、二十代の新婚カップルもいて、市民農園などと比べると年齢層は若い。週末は家族で楽しんでいる人もよく見受けられる。

開園は10時～17時。設備は、更衣室、シャワールーム、トイレなどがあり、シャワールームはよく利用されている。作業着や農具のレンタルもしているため、買い物

の帰りにも手軽に利用できる。

■ 新しい役割と魅力

都心居住者に都市的な農との新しい楽しみ方を提起している。郊外の団塊世代の中高齢者を対象とした市民農園と異なり、若者や主婦を中心に「きれいな土いじり」を楽しむスタイルである。そこには、都心部に専用の農園をもつ話題性、ファッション性および一種独特のステータスをもつ楽しみが見られる。週末にスポーツジムに通う感覚ながら、費用はそれ以下で、開放的な屋上での「土いじり」として新しいライフスタイルを提供している。

■ 今後の課題

都市農園は忙しい都心居住者をターゲットとしているので、専属の農業サポーターが必要であり、このための経費が割高になる。この場合は、広大な屋上庭園との一体管理で運営しているが、都市農園単独での事業では相当割高な会費を必要とし、事業性が低いと思われる。何らかの会費を下げる工夫が求められる。

プロジェクト概要

所在地 : 大阪市浪速区難波中2-10-70
なんばパークス屋上庭園
8F「円形劇場」の客席の上段
規模 : 約2坪×20区画
計画地域 : 農地法などの土地利用規制はなし
手法 : 都市農園(都市型貸菜園)

都市農園の開始時期: 平成15年10月オープン
施行者(事業者): 南海電気鉄道
屋上庭園設計
連絡先 : 株式会社辻本龍松園・西埴征広
☎06-6647-0092